

1. 小網代レーティング2017の問題点

- ① 小網代レーティングは簡易レーティングのため精度が低い。スタビリティ、浸水表面積を計測しない。ピッチングモーメントを評価しない、バウポール+ジェネカーを評価する式がない、などの問題がある。
- ② 小網代レーティング2017では精度を上げるため、ORCレーティングルールを参考にして、大きく有利不利が生じている艇はレーティング値に係数を掛けて補正していた。
(ORCレーティングルを参考とする理由、参考の仕方、レーティングの補正については「小網代レーティング2017の解説」を参照)
- ③ 補正を掛けたにも拘わらず、小網代レーティング2017ではTAの有利不利が未だかなり大きい。小網代レーティング2017のTAとORC2017レーティングとの乖離をシミュレートすると最大(最も有利な艇と最も不利な艇の差)で2%程度であり、有利な艇が勝ちやすくなっている。

2. 改正点 レーティングを補正する艇を増やして有利不利の落差を半分程度に縮小した。

① 小網代レーティング2017で補正した艇

TA I 2艇 TA II 6艇 TA III 3艇

② 小網代レーティング2019で補正した艇(小網代レーティング2019一覧を参照)

TA I 10艇 TA II 11艇 TA III 9艇

新ルールでORC2017レーティングルールとの乖離をシミュレートすると最大(最も有利な艇と最も不利な艇の差)で

TA I 約1% (9 s/mile程度)、TA II 約0.7% (4 s/mile程度) TA III 約1.3% (7 s/mile程度)であった。これは簡易レーティングとして許容範囲であると判断している。

3. レーティング計算式は変更しない。

レーティング計算式の改良は労力、時間、コストが掛かるので今回は見送った。

4. 今後

今回の改正は補正係数に大きく頼ったものである。今後は補正係数になるべく頼らず、計算式により公平なレーティングを実現するよう努力してゆく。